

**農林水産大臣賞受賞**  
受賞者 **特定非営利活動法人 せんがまち棚田俱楽部**  
(静岡県菊川市)

【地域の宝でむらおこし ～若い力で未来へ残す「棚田のある生活」を～】

## 1 取組の動機と背景

特定非営利活動法人せんがまち棚田俱楽部が活動する菊川市上倉沢地区では、開墾から 400 年の歴史と地域のシンボル的存在であった「千框（せんがまち）の棚田」が、後継者の減少から消滅の危機を迎えていた。

最盛期には約 10ha で稲作が行われていたが、棚田は機械化に適応し難く、平成の時代に入ると最盛期の 1 割程度にまで面積は落ち込み、地域としての活力も失うことが危惧されていた。

このような状況の中、『400 年続いた棚田の歴史を自分たちの時代で無くして良いのか』との思いから、当時青壮年部の代表が中心となり、棚田の未来への継承と棚田を媒体とした地域おこしを掲げ、平成 6 年に「千枚田を考える会」を立ち上げた。地道な活動が認められ、平成 11 年に静岡県の「棚田等十選」に認定されたことを契機に、より本格的かつ多角的な活動を行うため平成 22 年に本法人を設立した。同時に「棚田オーナー制度」を導入したほか、必要な「人力」や「知恵と活力」を静岡大学に求め、協力を呼びかけた結果「静岡大学棚田研究会」が発足し、協働で棚田保全活動を行うなかで貴重な存在となった。更に各種団体と連携することで、棚田は現在では水稻 3ha、採草地・そば等 3.2ha まで再生されている。

## 2 主なむらづくりの内容

- 棚田オーナーも含めた棚田を介した各種イベントや活動は、「棚田市場」、「紅茶作り教室」、「あぜ道アート」、「体験学習」など年間 25 回開催され、交流人口は 2,700 名以上（令和元年度）。
- 千框の棚田は、令和 2 年 6 月に棚田地域振興法に基づく「指定棚田地域」の指定を受けている。また、棚田の一部は、平成 25 年に世界農業遺産に登録された畠間にススキ等を刈敷きする伝統農法「静岡の茶草場農法」の茶草場農として利用。これら地域資源は各種イベントと融合させ集客と地域住民の意識醸成に寄与。
- 「静岡大学棚田研究会」との協働のほか、静岡県の推進する「一社一村しづおか運動」による企業 3 社のホームページを用いた情報発信や農道保全作業等の協力、地元青年部、棚田女性部など地域内外の団体等と連携したむらづくりを推進。
- 「棚田女性部」は、田植えや稲刈り等の際は、棚田米や地域食材を使った弁当の提供のほか、イベント時の接客や販売の主力を担うなど外部との交流には欠かせない存在。



棚田で 2 千本のロウソクを灯す  
「あぜ道アート」



世界農業遺産「茶草場農法」



法人メンバーと「静岡大学棚田研究会」



イベントでの主力「棚田女性部」